

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 大口弘和
 幹事 谷口優
 会報・雑誌委員長 山本英次

No. 13

慈愛の種を播きましょう Sow the Seeds of Love

2002～2003年度 RI会長 ビチャイ・ラタクル

きょうの例会
 第967回 平成14年10月8日(火)

音楽演奏 オーボエ奏者 佐藤栄里子さん
 ピアノ伴奏 伊藤真理子さん
 (紹介 大谷君)

先週の記録
 第966回 平成14年10月1日(火) 雨

◆“君が代” “奉仕の理想”

◆新入会員紹介



氏名 小出 毅
 生年月日 昭和32年6月17日
 事業所 オフィス ケイツー
 千種区田代町四観音道東116-10
 メゾン覚王山月宮殿C-825
 TEL&FAX 711-9117
 地位 事業主
 自宅 小牧市城山5-70-3
 推薦者 二村 聡
 職業分類 商品卸業 (文具・雑貨)
 委員会 親睦活動

竹内会員増強委員長より新会員歓迎挨拶

会員一同を代表して増強委員長より歓迎申し上げます。出席義務が負荷されますが、堅苦しい所ではないので、気楽に昼御飯を食べに来るつもりで楽しく御出席下さい。

◆出席報告

会員 71(65)名 出席 48名
 出席率 73.85%
 前々回 9月17日(修正出席率) 95.31%

◆ゲスト紹介

米山奨学生 王道海君

谷口幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので、理事役員の方は2階橘の間にお集まり下さい。
2. 次回例会終了後、指名委員会を開催致しますので、指名委員の方はお残り下さい。
3. ロータリーの友とガバナー月信が来ておりますのでお帰りにお持ち下さい。

大口会長挨拶

王君、ようこそ。

先程少し話しましたが、元気で研究も順調に進んでいるようで、この後、お話を伺うことを楽しみにしております。

早いもので本年度も4ヶ月目を迎えますことは皆様のご協力の賜と感謝いたします。そして、二村君の紹介で新会員の小出 毅君をお迎えすることができ、本日より会長テーマも「輪71」となります。

今月は色々行事がありますので、ご案内させていただきます。

10月8日(火) 午前10時30分より東山植物園の紫陽花の植樹地にて20周年記念事業の1つである橘 諸兄の「歌碑」の除幕式が行われます。その後、厚生年金会館にて例会は通常通り行います。

10月15日(火)は、細野恭弘ガバナー補佐訪問があります。また、例会後にクラブ協議会を開催致しますので、出席義務の皆さんはよろしく願いいたします。

10月22日(火)は23日(木)に例会日を変更して、本年度の最大行事であります20周年記念例会を行います。式典は能楽堂・祝宴は名古屋観光ホテルにて行われ、ガバナーはじめ多くのご来賓をお迎えいたします。

会員の皆様にはご多忙とは思いますが、万障繰り合わせのうえ全員の参加を切にお願いいたします。

10月29日(火)は、岡部快圓ガバナーの公式訪問が子どもがホストで名東RCと合同で行います。

以上のように忙しい月になりますが、皆様のご出席とご協力をお願いいたします。

米山月間に因み

◆米山奨学生 王道海君



今年は国交30周年の記念すべき年で、更に今日は中国では建国記念日に当たる特別な日にこのような席でスピーチのチャンスを戴き有り難うございます。

中国は北京や上海などの大都市が有名ですが、私が家族と住む湖北省襄樊市は人口約670万人の都市で名古屋が約200万人であることを考えると非常に大きな都市のようですが、中国では小さな町です。今、中国では中部と西部を開発する計画があり、段々発展していくと思います。また、犬山市と姉妹都市になっていますので毎年交流活動があります。

私は襄樊大学を卒業し、一年間化学の会社に就職しましたが、日本の進んだ技術を学びたくて98年に来日し、一年間日本語と日本について勉強しました。8人しかいないクラスにはドイツ・カナダ・アメリカ・インド・韓国・中国の人達がいて国際的な環境で、みんなと日本語で会話をするのは楽しかったです。この出会いで他の国のことも学ぶことができ、日本語もある程度解るようになりましたので、進んだ技術を学びたいと考え、10年程前から日本におり岐阜に住んでいる兄が東海地区で勉強するのなら名古屋大学が一番いいだろうと調べてくれました。調べるうちに野依先生の有機金属化学に興味を魅かれ先生に手紙を出しました。皆様御存知のとおり野依先生は昨年ノーベル化学賞を受賞されました。お忙しい先生なのにお返事を戴き面接を受けて先生の研究室で勉強させて頂く機会を得ることができ、その後、大学院に合格し理学研究科に入学させて頂きました。そして野依先生がセンター長を務められている物質科学国際研究センターの北村先生の研究グループに配属させて頂きました。それまではノーベル賞とは歴史上の偉い先生、例えばアインシュタインや日本の湯川英樹先生が受賞される、自分とは縁のない事だと思っていましたが、野依先生がノーベル化学賞を受賞され、とても驚くと共に大きな励みにな

りました。

有機化学は炭素原子を含む化合物を対象とする学問で、豊かな暮らしを支える基礎となっています。反応の進行に伴うエネルギーを変化します。結合を切るために、エネルギーが必要となります。このエネルギーを活性化エネルギーと呼びます。活性化エネルギーの小さい反応は起こりやすく、大きい反応は起こりにくいと言えます。触媒を使うことによって、反応の活性化エネルギーを低下させ、反応が起こりやすくなります。加え、多くの有機物質は立体的に鏡像異性体が存在しています。互いに鏡像異性体である化合物はちょうど右手と左手の関係に似ているように互いに重ね合わせることができません。二つの鏡像異性体の中純粋に目的とする立体化学を持つ一つの異性体を合成しなければなりません。これらの原理に基づき、分子触媒を用いる物質変換は大きく注目されています。大規模な有機合成は経済効率だけではなく、安全性、省資源、省エネルギー、環境調和性などを真剣に考慮したものでなければなりません。分子触媒を用いる物質変換はこの観点から理想的であります。

来日して中国とは全く違う生活・文化にある時はショックを受け故郷に帰りたと思った日もありましたが、周りの人たちと交流を交わし沢山の温かい手助けのお陰で今は日本に沢山の友達を作ることが出来ました。これは私の一生でかけがえのない宝物です。日本語は難しく思うこともありますが、皆様の前で話しコミュニケーションが出来るようになり、野依先生の研究室で知識を深めることも出来たこと、そして何よりも日本で4年間生活してきた事が自分の人生に経験と影響を与え大きな自信になりました。中国で暮らしていた時とは違い夢中で過ごしてきた生活は私に広い視野も与えてくれたと思います。特に研究室の北村先生を始めとする日本の諸先輩方とはとても真面目で何も知らない私に親切・丁寧に指導して下さい、朝早くから夜遅くまで研究に打ち込む姿は皆さんの化学に対する情熱がひしひしと伝わって、有機化学を研究し始めた私にとって大きな刺激となります。諸先輩方の熱い姿を見ると日本の将来を支える研究者となることは間違いなく、私も彼らに負けないように頑張る、日本の技術を故郷の中国で生かすことが出来るといいと思っています。

私の夢はまだまだ尽きませんが、少しずつ叶えていきたいです。米山奨学金を戴くまではアルバイトをしながら勉強をしていたので、体が疲れてこのまま続くか心配でしたが皆さんのお陰で安心して勉強に打ち込めて嬉しいことです。研究室の人としか交流がないのでまだ知らないことが多く、金銭についても沢山のことに迷っています。ロータリーでお世話頂きましてから石黒さんと皆さんに社会・人生についていろいろ教えて頂きました。それぞれの違っ

た人生を持った皆さんからチャンスがありましたら
お話を伺いたいです。皆さんの人生経験を参考にす
れば私の人生は迷わないでしょう。米山梅吉さんの
願いでもある他人への思いやり、助け合いの精神を
忘れずに大学で学んだ有機化学・触媒化学を生かし
て化学技術面で中国と日本はもとより世界各国の懸
け橋になれる研究者を目指し世の中の役に立てる人
になれるよう精一杯頑張っていきたいです。

◆3分間スピーチ 竹内会報・雑誌委員

会報・雑誌委員会では、配布される冊子の中から
感銘を受けたり皆様にお伝えしたい記事や内容を紹
介することになりました。

①まず、「ロータリーの友」には各地区大会の講演要
旨が載っております。例えば7月号「命を育て心
を結ぶー子供達は今」横川講師、8月号「戦後日
本の忘れもの」西原講師、9月号「外国から見た
日本の青少年」J.S.ツノダ講師などは珠玉の講演と
申してもよいでしょう。

②次に『言いたい、聞きたい』欄があります。実に
面白く、会員必読のコーナーと云えます。誰に尋
ねるよりも“ロータリーとは何ぞや”が判明いた
します。その上で只今のRotaryが抱えている諸件
が明白になって参りましょう。

毎月必ず配布されますので、この小誌を「毎月読
まれざるベストセラー」と自嘲する事なく先ず①と
②だけは当クラブ会員には必読願いたい次第。

又、2001～02年度碧南RCホストによる地区大会で
P.G.の佐藤千壽講師の『一隅を照らす』の内容。一
方、最近頂戴いたした同師の『渾沌』を事務所に置
きますので是非ご覧下さい。Rotaryの諸問題が明解
になります。

第151回ゴルフ会成績

ベルグラピアカントリー倶楽部 9/26(木)

RANK	NAME	Out	In	G	Hcp	NET
優勝	小林 明	49	52	101	24	77
2位	林 哲央	44	41	85	6	79
3位	加藤 重雄	52	47	99	19	80
B B	松居 敬二	45	50	95	9	87

(参加者 8名)

・次回ハンディ変更 小林君 19、林君 5



前年度、会長杯取切り戦では、今年度幹事の澤田君
が勝利を収め、同日、松楓閣にて開かれた祝賀会では
笹野前会長より記念品が贈られました。

例会変更のお知らせ

- 西春日井RC 10/15(火) 職場例会の為
- 名古屋名東RC 10/22(火) 名東区小中学校連合音
楽会の為、10/25(金) 愛知厚生年
金会館
- 豊山一城北RC 10/22(火) ガバナー公式訪問の為、
10/21(月) キャッスルプラザ
- 西春日井RC 10/22(火) 家族旅行の為、10/26(土)
- 名古屋名南RC 10/22(火) 職場例会の為
- 名古屋和合RC 10/23(水) 職場例会の為、中日新
聞社にて11時30分～
- 名古屋瑞穂RC 10/24(木) 職場例会の為
- 名古屋東山RC 10/24(木) 夜間例会の為

ニコボックス

小出 毅

本日より入会させて頂きます。
以後、宜しくお願い致します。

石黒 正則

王道海君がスピーチ頑張りますので、よろしく願い致します。

大口 弘和

新入会員の小出 毅さんをお迎
えして

澤田 淳治

ゴルフ会長杯取切り戦で優勝し
山本さんの作品を戴きました。
ありがとうございました。

小林 明

前年度ゴルフ取切り戦で準優勝
し、今年度第一回は優勝しました。

水野 民也

20周年記念事業、万葉の道での

記念碑除幕式の日が、好天に恵ま
れますように!!

在田 忠之・浅井 誠 寿
萩原 喜代子・池田 隆
池森 由幸・伊藤 健文
加藤 大豊・河村 政孝
菊池 昭元・小杉 啓彰
小山 雅弘・黒須 アイ子
牧野 登志・松居 敬二
松永 正史・宮尾 紘司
三好 親・水野 賀續
水谷 祥督・成田 良治
西川 豊長・大谷 和雄
佐野 寛・笹野 義春
鈴木 理之・竹内 眞三
谷口 優・舎人 経昭
山田 壽勝・吉田 節美
秋・本番! 衣替えになり街中

も秋めいて来ました。

加藤 重雄

会員誕生日祝い

和田 正敏

夫人誕生日祝い

伊豫田博明

結婚記念日祝い

柵木 充明

会員誕生日祝い

結婚記念日祝い

二村 聡

小出 毅君を紹介させて頂きま
す。宜しくお願い申し上げます。

結婚記念日祝い

合計

95,000円

「与える」から「創る」へ変わる 米山奨学事業の50年

(財)ロータリー米山記念奨学会 副理事長 高野 孫左エ門
(第2620地区(静岡県・山梨県)1982-83年度ガバナー)

米山奨学制度の誕生

1952年東京ロータリークラブは、日本のロータリーの創始者であり、ロータリー精神の実践の先達であった米山梅吉氏の功績を記念して、奨学制度を制定し、「米山基金」を発足させた。1958年には全国的に組織「ロータリー米山奨学委員会」に発展し、1967年には財団法人「ロータリー米山記念奨学会」が設立され半世紀が経過した。奨学生第1号に選ばれたタイからの留学生ソムチャード君への支援は年々その輪を広げ、日本のロータリアンは、この半世紀の間に、95か国からの1万人余の在日留学生に米山奨学金を支給し続けてきた。

米山梅吉氏没後6年、日本のロータリーが国際ロータリーに復帰後3年、当時の日本のロータリアンの、太平洋戦争でアジアの人々に与えた痛手と苦痛に対しての償いの思いと、平和日本を築こうとする願いを表明する絶好の事業として、この米山奨学制度は産声をあげた。

留学生の「生活支援」から「支援育成」へ

当初、アジアの発展と母国に貢献することを目指す留学生に、経済的支援を与える「米山奨学金」の意義と、その財源を寄付する日本のロータリアンの思いは、その後の米山奨学事業の拡大と充実の歩みの中に、強められ、改変を重ねながら今日を迎えている。

「もう一度考えよう・米山奨学事業」は1999年に行われたアンケートのテーマであるが、この中で日本のロータリアンはどのような若者を米山奨学生に選び支援しようとしているかが明らかになった。

この期待される奨学生像は、明日の世界の平和と豊かさにご貢献できる若者であり、その第一歩として、大学に推薦を依頼し、最終的選考は各地区のロータリアンが、ロータリアンの目で優秀な奨学生を選ぶこととなった。さらに、日本のロータリアンは、米

山奨学制度の特筆すべき世話クラブとカウンセラーの活動を通し、選ばれた留学生に日本の姿とロータリーの心・願いを伝える国際奉仕活動の展開を米山奨学事業に大きく期待している。米山基金発足当初の「困窮した留学生の生活支援」から「明日を築く優秀な留学生を支援育成」する新しい米山奨学制度に変わろうとしているのが、今日の米山である。

米山奨学期間を終え国費留学生に採用された富山の韓国留学生は、「米山は、ほかの奨学制度と違って支援してくれている人の顔が見える、素晴らしいものだった」と述べている。また、米山と国費の両方に合格した東京の女子留学生は、支給額の高い国費を辞退し、「奨学金を超えるロータリーの支援を評価」して米山を選んでいる。

明日に向かっての祈り

国際ロータリーは、近く100周年を、米山奨学事業は半世紀を迎えようとしているが、われわれは、世界や日本の環境や時代の変化に対応した歩みを、確認する時に立っている。新しく採用した大学推薦制度に伴い、ロータリーは大学との交流を考えなければならない。また、カウンセラーの役割の重要性を再確認し、これに対応しなければならない。さらに、この奨学事業を支えるロータリアンの寄付の減少をどのようにしていく止めたらよいか等々、変化する米山の課題は少なくない。

アメリカの神学者R.ニーバーは、1934年マサチューセッツの教会の礼拝で次のような祈りを捧げている。「神よ、変えることのできないものは、それを受け入れるだけの心の平静さ(serenity)を与え給え。変えるべきものは、それを変える勇気を、そしてそれらを見分ける知恵を与え給え」と。われわれは今、米山奨学会の明日に向かって、同じ祈りを捧げたい思いである。